



NEWS RELEASE

株式会社 すららネット

2025年12月3日

6か国の中学生3,400名以上が参加 「すらら 国際デジタル算数/数学コンテスト」 表彰式&交流イベントを開催

AIを活用したアダプティブな対話式ICT教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、国内外の生徒が集い算数/数学力を競う「すらら国際デジタル算数/数学コンテスト2025」（SuRaLa International Digital Math Contest 2025、以下「すらら国際DMC」）を、2025年9月24日（水）から11月15日（土）まで開催しました。国内予選・本選、成績上位者による国際決勝を経て、11月22日（土）に表彰式と国際交流イベントをオンラインで行いました。



算数/数学力向上だけでなく、目標に挑戦すること、努力が成果につながる経験を

すららネットでは、海外向けにシンハラ語（スリランカの公用語の一つ）などに翻訳したデジタル算数/数学AI教材「Surala Math」の提供と運用サポートを2014年から開始し、現在では複数言語に対応したプログラムがインドネシア、スリランカ、フィリピン、エジプト、カンボジアなどの国々で活用されています。2017年より開催してきた「すらら国際DMC」は、「Surala Math」での学習を通じて、基礎計算力の定着、数学的思考力の向上を図ります。さらに、子どもたちが目標に挑戦し、努力が成果につながる成功体験を通じて、自信や自己肯定感の醸成を目指しています。今回は日本、インドネシア、スリランカ、フィリピン、エジプト、カンボジアの6か国から3,400名を超える子どもたちが参加しました。

締めくくりは仲間を称えあう表彰式と異なる言語でも楽しめる交流イベント

「すらら国際DMC」は、算数の正確性と速さを競う「マス計算」と数学的思考力を問う問題に挑戦する「算数/数学テスト」の2つの部門を学年ごとに設けています。

各国での予選、本戦を勝ち抜いた子どもたち281名が国際決勝に挑みました。そして11月22日に国際決勝の結果発表と表彰式、および毎年恒例の国際交流イベントをオンラインで行いました。参加した約300名の子どもたちは、お互いの健闘を称えあうほか、グループに分かれてクイズに挑戦。異なる言語であってもジェスチャーなどで交流を深め、イベントを楽しみました。



結果発表は驚きと喜び、仲間を讃える歓声が飛び交い、盛り上がりは最高潮に

国際決勝の表彰式では、ZOOM や YouTube のストリーミングで多くの児童・生徒や教員、保護者が見守る中、各種受賞者の発表を行いました。

マス計算の最上位部門である「100 マス計算」の中学生の部では、H. D. Jayani Nethmini Perera さん（スリランカ）が、各四則演算の 100 マス計算テストをすべて満点・平均回答 1 分 24 秒という成績で見事 1 位を納めました。「嬉しくて興奮しています。足し算・引き算・掛け算・割り算をそれぞれ毎日勉強しました」と Jayani さんは喜びを語りました。

また、国際決勝のマス計算に参加した約 200 名のなかで、最も正答率が高く、1 マス当たりの回答スピードが速かった人に贈られる「SRJ Award」は、R. K. Induwara Rajarathna さん（スリランカ）が獲得しました。本コンテストのスポンサーでもあり、「速読」でも知られる株式会社 SRJ のカスタマーサクセス事業部の中田 亮介氏は、「一瞬一瞬に集中してスピードと正確さを両立させた成果は、これまでの努力の証です。これからも自分の力を信じて、一歩ずつ新しい挑戦を続けてください。おめでとうございます」とお祝いのメッセージを述べました。



喜びのコメントをする Jayani さん



「算数/数学テスト」部門は、公益財団法人日本数学検定協会から算数/数学の実用的な技能を測る、実用数学技能検定（数学検定・算数検定）の問題をご提供いただき、生徒は、代数・図形・統計など様々な分野で思考力を試される問題に挑戦します。「算数/数学テスト」は参加者からの要望に応え、最上位のカテゴリー E（中学 2 年生部門）を新設しました。その 1 位を獲得した Alysha Syakira さん（インドネシア）には、日本数学検定協会から「SUKEN Award」が贈られ

ました。Alyshaさんは、昨年に続き2年連続での受賞となりました。日本数学検定協会コンテンツプロデュース本部 副部長 山口哲氏からは、「見慣れない問題に出会ってもあきらめず、考え方抜く力が発揮されたことだと思います。普段から数学の問題に真剣に向き合い、なぜそうなるのかを自分の力で考える姿勢が今回の結果につながったのでしょう。数学は、計算だけでなく筋道を立てて考える力や複雑なことを整理して考える力を育ててくれます。その力は、科学や技術の分野はもちろん、社会を動かす仕組みを理解したり、新しいアイデアを生み出したりするときにも大いに役に立ちます。これからも数学を通じて、世界の広がりを感じながら学びを楽しんでください」と、お祝いの言葉が述べられました。

【開催概要】

■参加資格：算数/数学 ICT 教材「Surala Math」を利用中の児童生徒

■スケジュール：・各 国内予選 2025年9月下旬～10月中旬

・各 国内本戦 2025年10月下旬～11月上旬

・国際決勝 2025年11月15日（土）

・表彰式&国際交流イベント 2025年11月22日（土）

■部門：・マス計算（学年に応じたマス数で正確性と速さを競う）

・算数／数学テスト（数学的思考力を問う問題で得点を競う）

・特別賞（SUKEN Award、SRJ Award）

■主催：株式会社すららネット

■協賛：文部科学省 日本国型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）、

公益財団法人 日本数学検定協会、株式会社 SRJ 順不同



■海外向け算数/数学 ICT 教材「Surala Math」

インタラクティブなアニメーションを通じて、加減乗除の四則計算を中心とした算数を楽しく学べる「Surala Ninja！」と、「すらら」の算数/数学を海外向けにローカライズし、各国のシラバスに対応させた小学校・中学校向けの ICT 教材です。

生徒は自身のデバイスで自分のペースで学習できるとともに、指導者は学習管理システムを通じて生徒の学習の進捗や理解度を把握した上で学習内容を調整でき、生徒一人ひとりにあわせた個別最適な学習を実現します。

「Surala Math」は、インドネシア語版、スリランカ向けのシンハラ語版、主にフィリピンやインド、エジプトで活用されている英語版があります。現在英語版、インドネシア語版については小学校高学年範囲から一部中学範囲まで開発しており、クメール語版も開発中です。



■株式会社すららネットについて

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AIを活用したアダプティブな対話式ICT教材「すらら」「すららドリル」などを開発・提供しています。現在、国内の2,600校以上の学校や学習塾で導入され、約25万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況の子どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017年には、代表的なEdTechスタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

2014年より海外での事業も開始し、各国の私立学校及び学習塾へ導入されています。近年、日本型教育は世界の多くの国で注目を集めており、日本政府もEdTech企業の海外展開支援に取り組んでいます。すららネットは経済産業省／JETROが実施する「未来の教室」海外展開支援等事業に採択されたほか、今年度も官民協働のオールジャパンで取り組む日本型教育の海外展開事業「EDU-Port ニッポン」パイロット事業応援プロジェクトを通じて、日本の教育関係者との交流やコロナ禍におけるデジタル教育の普及などに取り組んでいます。

- ・コーポレートサイト : <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト : <https://surala.jp/>
- ・海外事業サイト : <https://surala-net.com/>